

医 健 第 2894 号
令和6年12月19日

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長
修 理 淳

インフルエンザの市内流行注意報発令に伴う注意喚起について（依頼）

日頃から本市の感染症対策に御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、第50週（12月9日～12月15日）の定点医療機関当たりの患者報告数が18.91となり、流行注意報発令基準(10.00)を超えたため、12月19日に市内にインフルエンザの流行注意報を発令しました。

区別の流行状況では、16区で定点医療機関当たりの患者報告数が流行注意報発令基準を超えています。

感染が広がる前に、施設への持ち込み防止策、発症者の早期把握及び感染拡大防止策の強化が重要です。

ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、各医療機関において感染対策をお願いいたします。

<添付資料>

- （1）記者発表資料「インフルエンザ流行注意報発令中」
- （2）2024-25 横浜市インフルエンザ流行情報8号

担 当：横浜市医療局健康安全課
電 話：671-2463 FAX：664-7296
E-mail：ir-kenkoukiki@city.yokohama.lg.jp

インフルエンザ流行注意報発令中

横浜市では、令和6年第50週（12月9日～12月15日）の全市集計において、インフルエンザ注意報発令基準（1定点医療機関（※1）当たり1週間の患者報告数10.00人）を超え、「18.91」となりましたので、インフルエンザ流行注意報を発令しました。年齢別では10歳未満の報告が全体の34.5%、15歳未満の報告が全体の61.0%となっています。

市民の皆さま一人ひとりが早めに予防策を取りましょう。

（※1 定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告する医療機関（市内153か所））

市内定点当たりの患者報告数

年・週	期間	患者報告数（人）（※2）	備考
令和6年第47週	11月18日～11月24日	2.52	
第48週	11月25日～12月1日	6.21	
第49週	12月2日～12月8日	9.81	
第50週	12月9日～12月15日	18.91	注意報

（※2 患者報告数は医療機関からの追加報告により、数値が変動します。）

【参考】横浜市衛生研究所 Web ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

横浜市の感染症の流行情報を分かりやすく！メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/infectious/>

インフルエンザにかからない、うつさないためのポイント



インフルエンザにかかったかもしれないと思ったときは

- 人混みへの外出を控え、無理をせず十分に休養をとりましょう。
- 高熱が続く、呼吸が苦しい、意識状態がおかしいなど、具合が悪ければ早めに医療機関を受診しましょう。
- 乳幼児や高齢者、妊婦、免疫力の低下、基礎疾患のある方は特に重症化しやすいため、心配な場合は早めに医療機関を受診しましょう。

インフルエンザの予防接種

- 重症化予防のため予防接種を受けましょう。（高齢者インフルエンザ予防接種は12月31日までです。）

【参考】厚生労働省 Web ページ 「インフルエンザ（総合ページ）」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infu/infu/index.html

お問合せ先

（感染症対策全般について）医療局健康安全課長	赤松 智子	電話 045-671-2442
（感染症発生動向について）衛生研究所感染症・疫学情報課長	横山 涼子	電話 045-370-9279

横浜市インフルエンザ流行情報 8 号

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

流行注意報が発令されました

【第 50 週(12 月 9 日～12 月 15 日)の概況】

- ✓ 定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **18.91** となり、流行注意報の発令基準となる 10.00 を上回りました。
- ✓ 年齢別では、15 歳未満の報告が全体の 61.0% を占めています。
- ✓ 学級閉鎖等は、小学校を中心に 69 施設、患者数は 1,023 人です。
- ✓ 市内迅速診断キットの結果は、A 型 99.4%、B 型 0.5%、A 型・B 型共に陽性 0.1%で、**A 型が多く検出**されています。
- ✓ 病原体分離・検出状況では A 型の分離数が多くなっています。

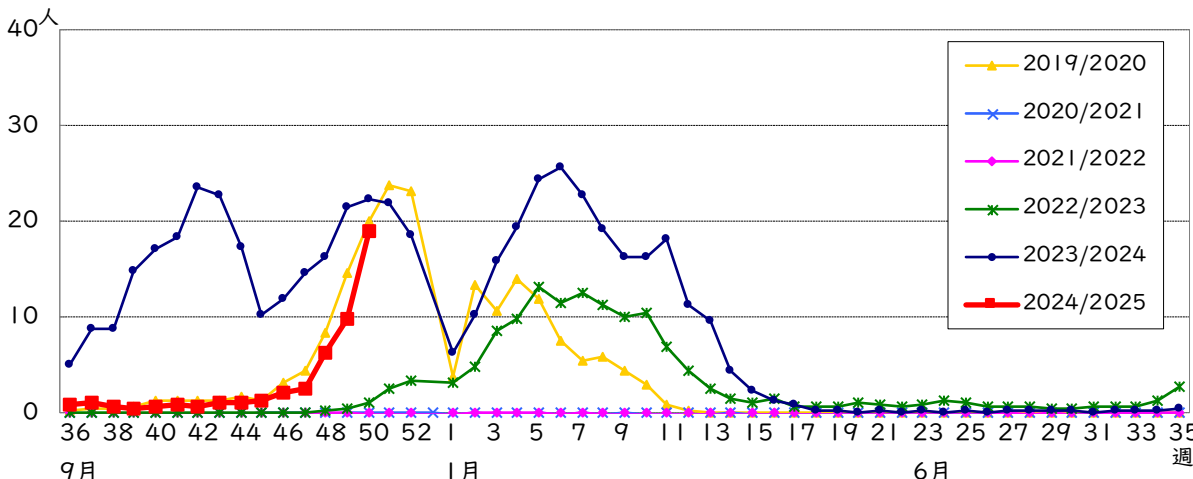
 咳エチケットや正しい手洗い^{※2}等でインフルエンザを予防しましょう。

※1 定点あたりの患者報告数とは、1 週間に 1 回、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)から報告された患者数の平均値です。

※2 令和 6 年度インフルエンザ Q&A(厚生労働省)に、インフルエンザの予防方法等について掲載されています。

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、2024 年 8 月下旬(第 34 週 0.19)以降、緩やかな増加傾向が続き、10 月下旬に流行開始期に入りました。第 50 週は 18.91 となり、流行注意報の発令基準(10.00)を上回りました。



【地図で表した直近 3 週間の区別流行状況】

(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

【参考】

直近流行(2023/24 シーズン)の流行推移

流行の開始【定点あたり 1.00 以上】

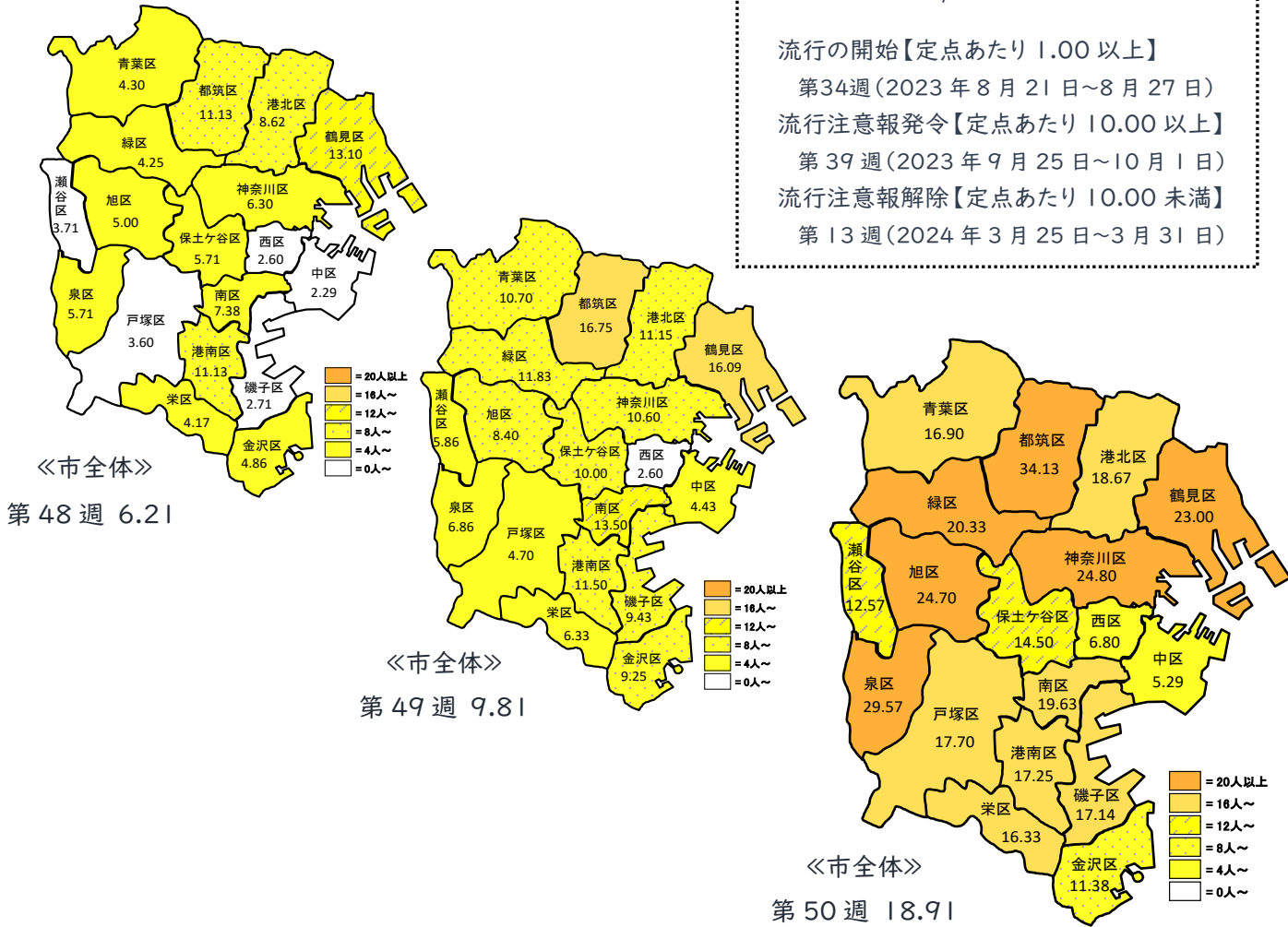
第34週(2023年8月21日~8月27日)

流行注意報発令【定点あたり 10.00 以上】

第39週(2023年9月25日~10月1日)

流行注意報解除【定点あたり 10.00 未満】

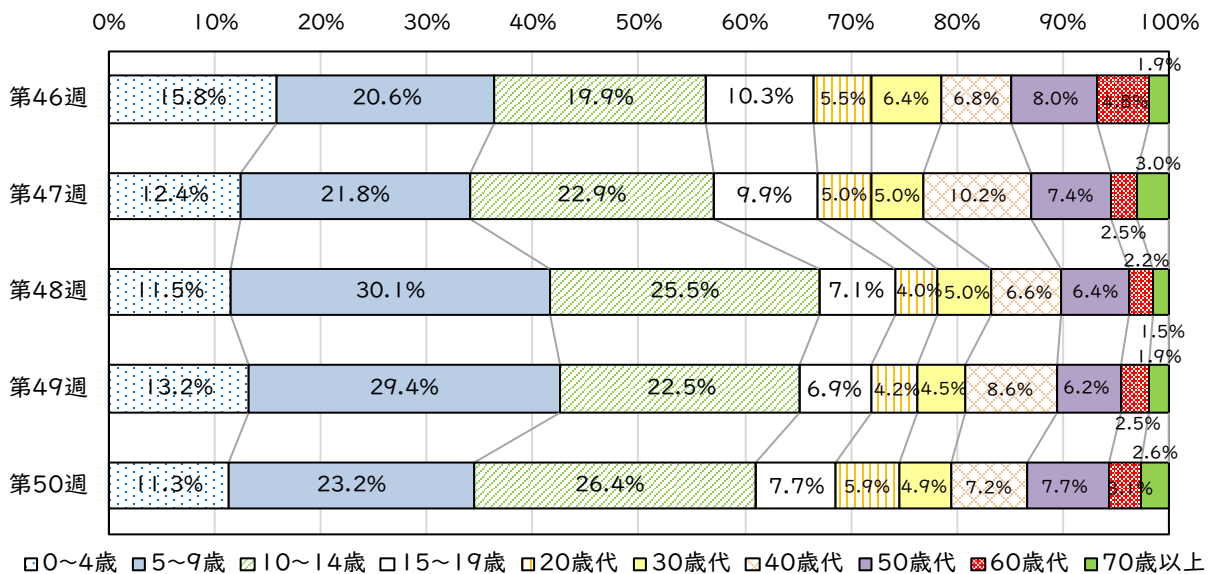
第13週(2024年3月25日~3月31日)



【年齢層別集計】

第50週の患者年齢構成は、10歳未満が34.5%、10歳から15歳未満が26.4%で、15歳未満が全体の61.0%を占めています。

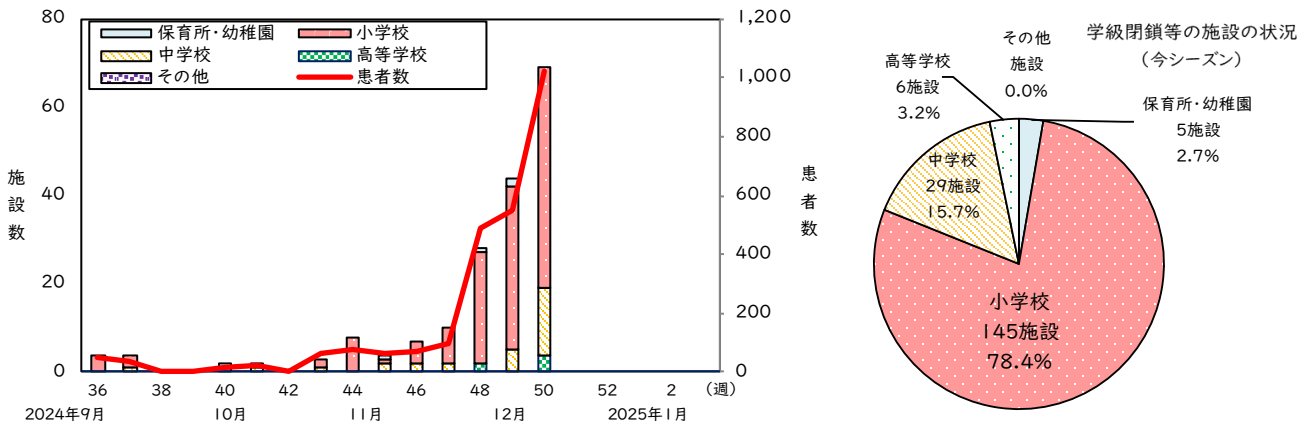
<年齢層別患者割合>



※ 小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。

【市内学級閉鎖等状況】

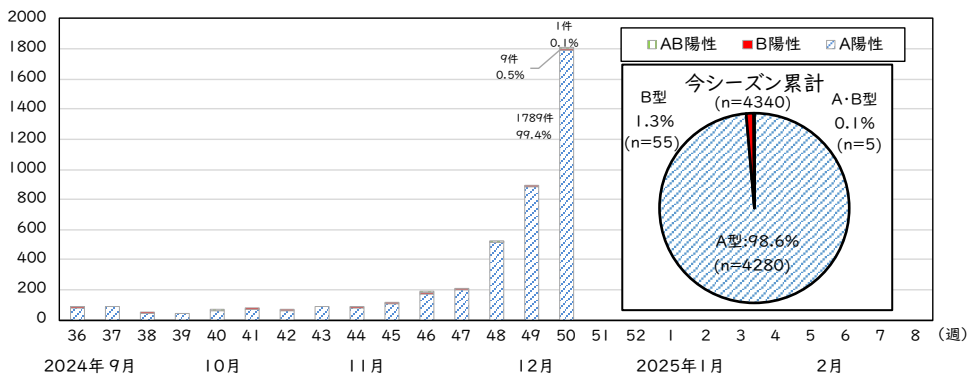
第50週は、69施設（小学校50、中学校15、高等学校4）から、1,023人の患者数の報告がありました。なお、今シーズンの累計は185施設、延べ2,566人の患者数が報告されており、施設毎の割合は、保育所・幼稚園2.7%、小学校78.4%、中学校15.7%、高等学校3.2%です。



【迅速キット結果】

第50週の迅速キットの結果は、A型99.4%、B型0.5%、A型・B型共に陽性0.1%で、A型が多く検出されています。

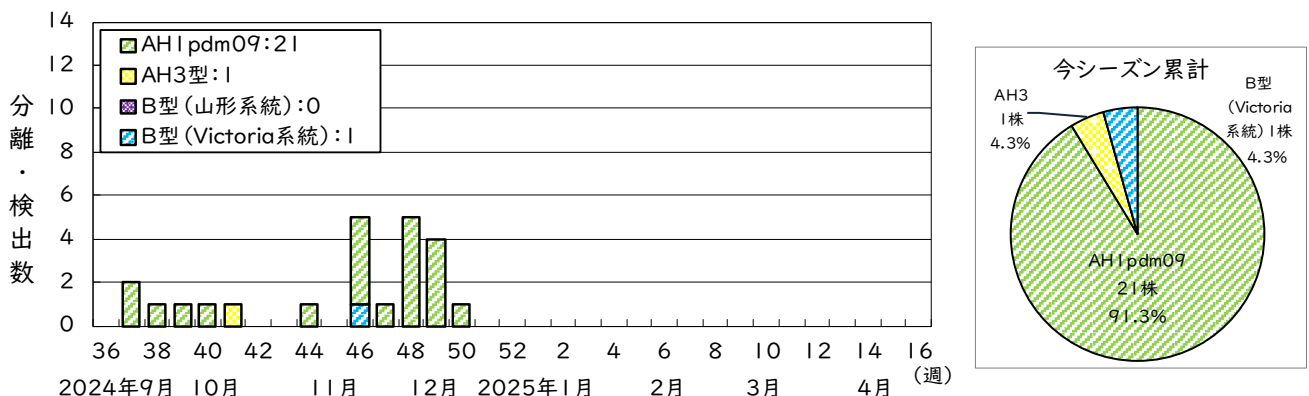
なお、今シーズンの累計は、A型98.6%、B型1.3%、A型・B型共に陽性0.1%です。



【市内病原体検出状況】

市内の病原体定点^{※4}から累計で、AH1pdm09が21株、AH3型が1株、B型(Victoria系統)が1株分離・検出されています。全国の分離・検出状況^{※5}と同様の傾向と考えられます。

<市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況(2024年12月16日現在)>

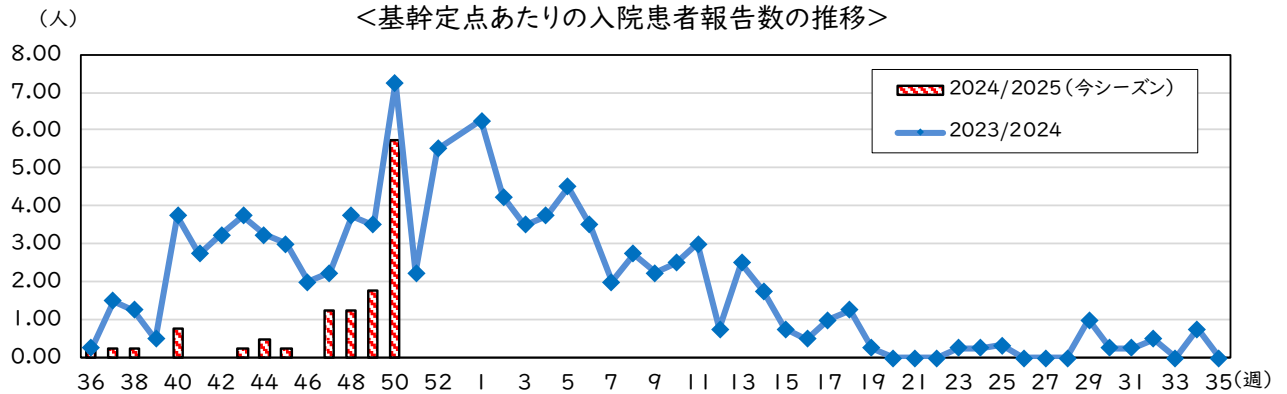


※4 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

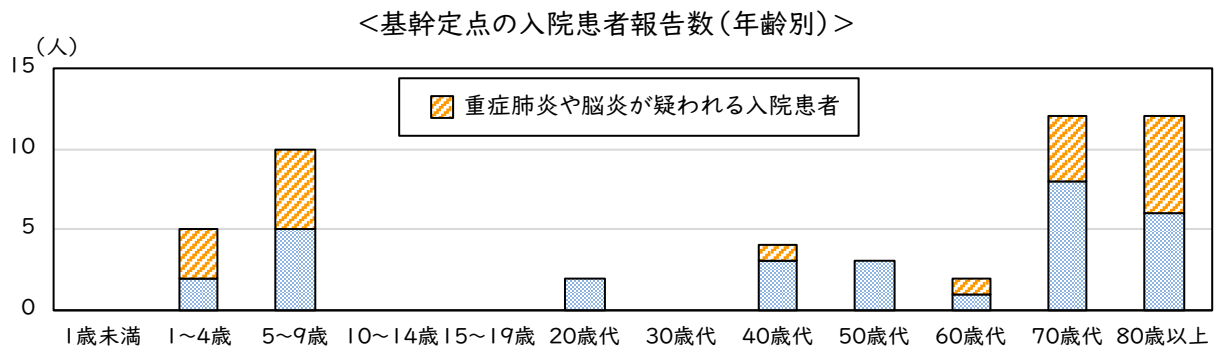
※5 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※6}におけるインフルエンザ入院患者は、第50週は23人の報告があり、今シーズンは現在までに累計50人（10歳未満15人、10歳代0人、20歳代2人、30歳代0人、40歳代4人、50歳代3人、60歳代2人、70歳代12人、80歳以上12人）です。入院時の診療内容（ICU入室、人工呼吸器の利用、頭部CT検査、頭部MRI検査、脳波検査を実施）で重症肺炎や脳炎が疑われる患者は、現在までに累計で20人（うち第50週報告数は9人）です。



※6 基幹定点：患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



* 参考リンク

近隣自治体の流行状況

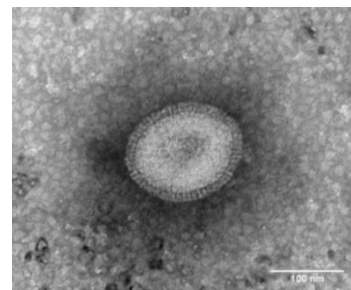
- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

- [国立感染症研究所](#)

インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影：
横浜市衛生研究所



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9279
横浜市医療局健康安全課 TEL 045(671)2442